

平成 29 年度第 1 回 三笠市総合教育会議

- 1 開催日時 平成 30 年 3 月 28 日（水）午後 3 時 30 分開会
- 2 開催場所 三笠市役所 301 号室
- 3 出席者
- | | |
|------|------|
| 三笠市長 | 西城賢策 |
| 教育委員 | 後藤寿 |
| 教育委員 | 杉山文夫 |
| 教育委員 | 黒田憲治 |
| 教育長 | 永田徹 |
- 4 事務局職員
- | | |
|--------------------|------|
| 企画財政部長 | 金子満 |
| 教育次長 | 高森裕司 |
| 学校教育課長 | 坂保徳 |
| 高校生レストラン
開設準備室長 | 中原保 |
| 学校教育係長 | 濱田圭一 |
| 企画係長 | 加藤慎吾 |
| 企画係主任主事 | 片岡雪乃 |
| 企画係主事 | 坂口卓弥 |
- 5 傍聴人 1 名
- 6 議 題
- (1) コミュニティ・スクールの取組について
 - (2) 小学校英語教育の取組について

議事録（要旨）

1 開会

2 市長挨拶（要旨）

今年度で3回目を迎える本会議においては、教育について実質的な議論を行うような場にしたいと考えてございます。

今年、コミュニティ・スクールの全国大会が当市で行われることや、新学習指導要領が2020年度に改正されることを踏まえ、英語教育の必要性がグローバル化により求められておりますので、コミュニティ・スクールの実質的な議論を行い、教育の進展というものがこの会議の中で深められればよいと思います。

お互いに忌憚のない意見交換を行い、教育の発展に努めたいと思いますのでどうぞよろしく願います。

3 議題

(1) コミュニティ・スクールの取組について

【委員】 学力向上について話をさせていただきたいと思います。

学力を向上させ、それぞれの分野で活躍させていくことが望ましいと考えています。学力テストの結果を分析すると、成績が下の生徒がたくさんいれば、正答率が変動し、評価が低くなりますので、学力の底上げには中間層をあげていかないと中々難しいのかなと思っています。成績が下の生徒にはコミュニティ・スクールで行っている放課後学習、中間層の底上げには、生徒の自主性によりますが未来塾でということ、よりよい運営をしていただければと思っています。

【教育次長】 現在、当市でも新学習指導要領の改正内容を反映してアクティブラーニングということでグループワーク、ディスカッションなど生徒達が集中して勉強できるように学校全体で取り組んでいるところでございます。学力の底上げについては、未来塾にやる気のある生徒が自主的に通い、学んでいることから、将来に向けてはレベル別に外部講師などを招き三笠の学校で学んでいける環境づくりをしてまいりたいと思います。

- 【市長】 教育長はいかがですか。
- 【教育長】 コミュニティ・スクール及び未来塾で学力の底上げをしている段階であります。未来塾は、今年度で3年目となる事業でございます。学校、未来塾の先生と連携し、生徒の学力における弱点をなくすような形で授業を行っております。また、家庭学習も重要であると考えておりますので、今まで以上にコミュニティ・スクール、未来塾、家庭学習を推進してまいりたいと思います。
- 【委員】 農業者の教育委員という立場からお話ししたいと思えます。コミュニティ・スクールより前に地域科の授業がありまして、子どもたちと触れ合う機会が多くございます。
- コミュニティ・スクールでも放課後でも私は子どもを受け入れる機会をもってもいいと思っています。仲間もおりますので、コミュニティ・スクールで色んなことを体験したいという父母がいたらお互い連絡をとってやりたいと思えます。
- 学校給食で三笠産の野菜を沢山使用してもらえようになりました。子どもたちには、三笠の野菜の味を覚えてほしいですし、今年オープンする高校生レストランでも三笠産の野菜で作った料理で三笠の野菜がおいしいと言ってもらえればと思っています。
- 【市長】 食育という視点で地元の旬をいれるのは大事ですし、高校生レストランで三笠産の野菜をどう活用するのかというのはテーマにしており、活用するシステムを構築しているところだと聞いています。
- 【準備室長】 農業団体、高校と打合せを行い、最終的なメニューを決めています。農業者の方に作って貰いたい野菜もこれから出てくると思えますので、高校と生産者との組織作りも含め、様々なサポートをしていただきながら地元の物を使っていくことをシステム化してまいります。
- 【市長】 システムについては、地域の商業者もどうやって参加していただくかということも、まちとして考えることが必要ですからね。その他、ご意見ございますか。
- 【委員】 柔道・ダンス指導にボランティア参加1名となっております。外部から講師を招いて行っていると思えますが、地元の人の活用、地域おこし協力隊の活用というのは可能なの

でしょうか。

【企画財政部長】 地元の人に入って一緒にやっていただくのは地域を盛り上げるために必要だと思っております。

また、地域おこし協力隊の活用も可能であるため、所管とも充分協議してまいりたいと思います。

【市長】 地元の人々の活用なしに地域を活性化することはできません。貴重な提案ですので実現に向けた工夫をお願いします。

また、父兄が期待することとして学力向上はテーマになってくると思います。コミュニティ・スクールが学力の向上につながるという部分を求めなければならないと思っていますので教育委員会においても検討をお願いしています。

(2) 小学校英語教育の取組について

【委員】 最近、市内でも外国人の方を見かけることが多くなっていると感じています。外国人と対面しても物怖じせずに会話できる英語教育、外国人と触れ合える環境づくりがあればと思っています。

【教育長】 国際的に活躍できる人材を育てるには、外国語に幼い頃から触れることが大切だと思っております。今後、海外研修、交流事業等も視野に入りたいと考えていることから、単に研修旅行にはならないように行えればと思っております。

【委員】 三笠市は、早くから英語に触れる機会が多く他市より恵まれていると感じます。英語に親しんでどんどん話しかけることができる形になればいいなと思っています。

【委員】 昔、カナダの子どもをホームステイで受け入れたことがあります。今もそういう事業があればと思っています。

【市長】 そういう機会は大事ですね。一定の力のある子だったら海外に行かせてあげればいいと思っております。

いかにしてシステム化するかですね。海外に子どもたちを派遣できるような力がまちにつけばいいと思っています。

議題としては上がっていませんが、皆様のご意見を伺いたいと思っております。

昨今、教育に対する行政の介入というのは問題となっているニュースが散見されます。教育に対して、行政側がど

こまで介入するか、教育に関する基本法とも併せてどう考えていくかというのが大きなテーマだと思います。

翻って、当市では教育そのものだけでなく地域振興も考えてほしいと常々申しております。高校生レストランで地域の食材を活用することなどですね。教育の場ではありますが、結果として地域振興に繋がればよいと考え、努力しておりますのでご理解いただければと思います。

もう一つ、三笠高校の指定校推薦枠についてです。将来の地域振興に繋げるためには必要だと思うのですが、ご意見をお聞かせください。

【委員】 指定校推薦枠については賛成です。親の立場として考えるとすごくハードルの高い学校になってしまっていると感じますので、そういう枠があれば、通いやすくてよいのではないかと思います。

【委員】 今年は、三笠出身の生徒が入らなくて寂しいねという話しをしていました。ある程度の学力は必要で、なおかつ調理人を目指したいという志がないとだめですよ。

【委員】 市内には空き店舗もあるので、手に職をつけ、なんとか三笠に残ってもらう工夫をすれば、また違ったまちづくりができるのではないかと思います。

【市長】 このような意見が至極当然だと思っております。なにより地域振興に繋げるためには地域でしっかり腰を据えてもらえるよう将来的に事業を起こしてもらうことを念頭におき、実現するような工夫が必要です。高校生レストランを活用しての地域振興があってもいいと思っています。

今後とも総合教育会議の中でもしっかり議論させていただければと思います。

以上